

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人 名古屋市立大学

(2) 大学名

名古屋市立大学

(3) 大学の位置

〒467-8603

愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地

(〒467-8601愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ニシノ ヒトオ) 西野 仁雄 (平成18年4月)	(トガリ ハジメ) 戸苅 創 (平成22年4月)	任期満了に伴う退職・選任(22)
学長	(ニシノ ヒトオ) 西野 仁雄 (平成18年4月)	(トガリ ハジメ) 戸苅 創 (平成22年4月)	任期満了に伴う退職・選任(22)
研究科長	(ミズカミ ハジメ) 水上 元 (平成19年4月)	(ミヤタ ナオキ) 宮田 直樹 (平成23年4月)	任期満了に伴う退任・選任(23)
学科長等			

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例)平成20年度に報告済の内容 (20)

平成23年度に報告する内容 (23)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称，定員，入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・様式は，平成21年度開設の博士後期課程の場合（平成23年度までの3年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が2年以下の場合には欄を削除し，4年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5) - 調査対象研究科等の名称，定員

調査対象学部等の名称（学位）	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
薬学研究科 創薬生命科学専攻 （博士前期課程） 修士（薬科学）	2年	36人	— 年次人	72人	基礎となる学部等 薬学部 生命薬科学科

(5) - 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	対象年度 平成22年度		平成23年度		平均入学定員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	36人 () []	人 () []	36人 () []	人 () []	1.00倍	
志願者数	45 () [2]	() () []	42 () [2]	() () []		
受験者数	45 () [2]	() () []	42 () [2]	() () []		
合格者数	43 () [2]	() () []	39 () [1]	() () []		
B 入学者数	37 () [2]	() () []	35 () [1]	() () []		
入学定員超過率 B / A	1.03		0.97			

- (注)・()内には，社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・[]内には，留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・「入学定員超過率」については，**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出**してください。なお，計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位まで**記入してください。
 ・「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 なお，計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・「平成23年度」には，平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・「平成20～22年度」には，確定した数値を記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	対象年度 平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[2] 37	[]	[1] 36	[]	
2年次	/		[2] 35	[]	
計			[2] 37	[3] 71	

- (注)・[]内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください

(5) - 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a / b)
平成 2 0 年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	(主な退学理由)		
平成 2 1 年度 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度	
(主な退学理由)			
平成 2 2 年度 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [2]	2.7%
	うち平成22年度入学者 1人	うち平成22年度 37人	
	(主な退学理由)		
・家庭の事情による就職			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、[当該対象年度における退学者数]を、[当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数]で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	創薬生命科学基礎	1・2前前		1		3	4	2	4	2	体制強化(23) 教員の異動(22) 兼1 体制強化(23) 体制強化(23) 教員の異動(22) 兼1			
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1		4	4	2	3	3				
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1		5	4	4	4	3				
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1		8	3	4	6	2				
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1		7	2		6	4				
	小計(4科目)	-		4		20	15	11	13	19	8	14	兼2	-
専門科目	医薬化学分野	薬化学特論	1・2前後	1		1	1	1						体制強化(23) 体制強化(22) 教員の退職(22)
		精密有機反応学特論	1・2前後	1		1	1		1			1		
		薬品合成化学特論	1・2後前	1		1		1						
		機能分子構造学特論	1・2後後	1		1	4	1	1					
	生命分子薬学分野	生体超分子システム解析学特論	1・2前後		1		1	1		1	0			教員の退職採用(22) 兼1
		コロイド・高分子物性学特論	1・2前後		1		1		4	1				
		生命分子構造学特論	1・2後後		1		1		1	1				
		分子生物薬学特論	1・2後後		1		1	1	1					
	医療分子機能分野	薬物送達学特論	1・2前後		1		1			1				体制強化(23) 体制強化(23)
		生薬学特論	1・2前後		1		1	1		1	0			
		生体防御機能学特論	1・2後後		1		1	1		4	0			
		遺伝情報学特論	1・2後前		1		1	1		4				
		細胞分子薬効解析学特論	1・2前後		1		1	1	1					
	医療薬学分野	病態生化学特論	1・2前後		1		1			1				体制強化(23) 体制強化(23) 体制強化(23) 教員の採用(22.10) 教員の退職(22) 兼1 教育内容の充実(23)
		薬物動態制御学特論	1・2後前		1		1	1		1				
		病態解析学特論	1・2前後		1		1	1		1				
		医薬品代謝解析学特論	1・2後後		1		1			1				
中枢神経機能薬理学特論		1・2前後		1		1	4		1					
医薬品安全性評価学特論		1・2前後		1		1			1					
病院薬剤学特論		1・2後前		1		1		1	1					
融合分野	臨床薬学特論	1・2後後		1		4		2	1				体制強化(22)	
	薬工融合特論科目	1・2前後		1										
	薬工融合特論科目	1・2後後		1										
	(23科目)			23		20	15	10	13	19	7	44	兼2	-
	小計(-22科目)-	-		22		48	44	8	42					

特別講義 科目	創薬生命科学特別講義	1・2後	2								兼4	オムニバス	
	創薬生命科学特別講義	1・2後	1									教育内容の充実(23)	
	小計(1科目)	-	3	2							兼4	-	
特別演習	医薬化学特別演習	1~2通	8			3	4	2	1	2	4	体制強化(23)	
	生命分子薬学特別演習	1~2通	8			4	3	2	3	兼1	4	教員の退職採用 (22)	
	医療分子機能薬学特別演習	1~2通	8			5	4	4	4		3	体制強化(23)	
	医療薬学特別演習	1~2通	8			8	3	4			4	体制強化(23)	
	小計(4科目)	-	32			20	15	10	13		7	14	兼1
					19	14	8	12				兼2	-
特別研究	医薬化学特別演習	1~2通	8			3	4	2	4	2	4	体制強化(23)	
	生命分子薬学特別演習	1~2通	8			4	3	2	3	兼1	4	教員の退職採用 (22)	
	医療分子機能薬学特別演習	1~2通	8			5	4	4	4		3	体制強化(23)	
	医療薬学特別演習	1~2通	8			8	3	4			4	体制強化(23)	
	小計(4科目)	-	32			20	15	10	13		7	14	兼1
					19	14	8	12				兼2	-

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- 届出時の授業科目全て(兼任, 兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお, 昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 - 「配当年次」について, 届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても, 届出時の状況を黒字で記載してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
 - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても, 「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし, 「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
1	26	0	27	2	27	0	29	
				[1]	[1]	[]	[2]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合： 1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注)・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。（ただし，未開講科目があった場合は，(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。）

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注)・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 大学整備計画の進展(22)			
	校舎敷地	182,995.16㎡ 175,598.16㎡	0㎡	0㎡	182,995.16㎡ 175,598.16㎡				
	運動場用地	19,071.00㎡ 26,468.00㎡	0㎡	0㎡	19,071.00㎡ 26,468.00㎡				
	小 計	202,066.16㎡	0㎡	0㎡	202,066.16㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	202,066.16㎡	0㎡	0㎡	202,066.16㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学整備計画の進展(23) 大学整備計画の進展及び誤謬訂正(22) 大学全体				
	196,659.56㎡ 196,336.27㎡ 141,672.43㎡	0㎡	0㎡	196,659.56㎡ 196,336.27㎡ 141,672.43㎡					
	(141,672.43㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(141,672.43㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学整備計画の進展(23) 大学整備計画の進展及び誤謬訂正(22) 大学全体			
	79室 81室 72室	113室 116室	55室 115室	13室 15室 (補助職員0人)	0室 2室 (補助職員0-1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	薬学研究科 創薬生命科学専攻(博士前期課程)		41 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体 電子ジャーナルについては田辺キャンパスで利用可能タイトル数	
		(うち外国書) 冊	(うち外国書) 種						(うち外国書)
	薬学研究科 創薬生命科学専攻 (博士前期課程)	64,551 [35,700] 63,948 [35,520] 63,347 [35,305] (63,347 [35,305])	1,317 [646] 1,345 [651] 1,445 [667] (1,445 [667])	6,151 [4,915] 5,324 [4,282] 4,380 [3,479] (4,380 [3,479])	88 (88)	560 (560)	1 (1)		
	計	64,551 [35,700] 63,948 [35,520] 63,347 [35,305] (63,347 [35,305])	1,317 [646] 1,345 [651] 1,445 [667] (1,445 [667])	6,151 [4,915] 5,324 [4,282] 4,380 [3,479] (4,380 [3,479])	88 (88)	560 (560)	1 (1)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			誤謬訂正(22)		
	8,122.36-7,509.04㎡		518席	773,333冊					
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 誤謬訂正(22)		
	3,267.93-680.94㎡		野 球 グ ラ ン ド テ ニ ス コ ー ト						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	各経費は研究科全体 図書費には電子ジャーナル及びデータベースの運用料を含む 共同研究費として特別研究奨励費が全学で30,000千円計上され、学長裁量により各教員に配分
		教員1人当り研究費等	601千円	565千円 604千円	図書購入費	10,347千円	10,347千円	9,711千円 10,456千円 10,347千円	
		共同研究費等	30,700千円	30,000千円 30,700千円	設備購入費	4,705千円	4,705千円	4,705千円	
	学生1人当り納付金	区分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		市民	767.8千円	535.8千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		その他	867.8千円	535.8千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金をもって充当する。							

(注)・届出時の計画を，届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を，その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

4 既設大学等の状況

大学の名称		名古屋市立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学部									
薬学科	6	60	-	360	学士(薬学)	1.27	平成18年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	
生命薬科学科	4	40	-	160	学士(薬科学)	1.25	平成18年度		
医学部									
医学科	6	95	-	522	学士(医学)	1.00	昭和25年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
経済学部									
公共政策学科	4	90	-	270	学士(経済学)	-	平成19年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
マネジメントシステム学科	4	80	-	240	学士(経営学)	-	平成19年度		
会計ファイナンス学科	4	60	-	180	学士(経営学)	-	平成19年度		
人文社会学部			(3年次)						
人間科学科	4	50	10	220	学士(人間科学)	1.08 (0.90)	平成8年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
現代社会学科	4	50	10	220	学士(現代社会学)	1.06 (0.90)	平成8年度		
国際文化学科	4	55	-	220	学士(国際文学)	1.09	平成8年度		
芸術工学部									
デザイン情報学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.06	平成17年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.03	平成17年度		
看護学部									
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.02	平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
大学の名称		名古屋市立大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学研究科									
創薬生命科学専攻(前期課程)	2	36	-	72	修士(薬科学)	1.00	平成22年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	創薬生命科学専攻(前期課程(旧))及び医療機能薬学専攻(前期課程)は平成22年4月学生募集を停止
創薬生命科学専攻(後期課程)	3	10	-	30	博士(薬学)	0.47	平成13年度		
医療機能薬学専攻(後期課程)	3	8	-	24	博士(薬学)	1.20	平成13年度		

医学研究科						0.81		
医科学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(医科学)	0.90	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
生体機能・構造医学専攻 (博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	1.03	平成12年度	
生体情報・機能制御医学専攻 (博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	0.71	平成12年度	
生体防御・総合医学専攻 (博士課程)	4	18	-	72	博士(医学)	0.83	平成12年度	
予防・社会医学専攻(博士課程)	4	4	-	16	博士(医学)	0.13	平成12年度	
経済学研究科						0.98		
経済学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	1.07	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
経済学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(経済学)	0.26	平成20年度	
経営学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	1.45	平成20年度	
経営学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(経済学)	0.73	平成20年度	
人間文化研究科						0.74		
人間文化専攻 (前期課程)	2	25	-	50	修士(人間文化)	0.84	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
人間文化専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(人間文化)	0.67	平成14年度	
芸術工学研究科						0.79		
芸術工学専攻 (前期課程)	2	25	-	50	修士(芸術工学)	1.08	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号
芸術工学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(芸術工学)	0.47	平成14年度	
システム自然科学研究科						0.85		
生体情報専攻 (前期課程)	2	15	-	30	修士(生体情報)	0.90	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
生体情報専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(生体情報)	0.80	平成14年度	
看護学研究科						0.71		
看護学専攻(前期課程)	2	24	-	48	修士(看護学)	0.92	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
看護学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(看護学)	0.53	平成17年度	

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小田嶋 和徳 ()	平成22年4月	機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	専	准教授	池田 慎一 ()	平成22年4月	機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	平成22年3月 小田嶋教授退職のため 担当部分を同一研究室の 教員で担当(22)
					専	講師	白井 直洋 ()	平成22年4月		
専	准教授	田邊 光男 ()	平成22年4月	中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	専	准教授	大澤 匡弘 ()	平成22年10月	中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年3月 田邊准教授退職に伴い、 後任を補充(22)
専	講師	宮田 勇 ()	平成22年4月	コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	専	准教授	奥園 透 ()	平成22年4月	コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	平成22年3月 宮田講師退職に伴い、 後任を補充(22)
専	助教	馬場 敦 ()	平成22年4月	病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	専	助教	河野 孝夫 ()	平成22年4月	病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	平成22年3月 馬場助教退職に伴い、 後任を補充(22)
専	准教授	水島 恒裕 ()	平成22年4月	生命分子構造学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	専	准教授	佐藤 匡史 ()	平成23年4月	生命分子構造学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	平成23年3月 水島准教授退職に伴い、 後任を補充(23)
					専	教授	中村 精一 ()	平成22年4月	薬品合成化学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(22)
					専	教授	松永 民秀 ()	平成22年4月	臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(22)
					専	教授	頭金 正博 ()	平成23年4月	医薬品安全性評価学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成23年4月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の全部および一部を担当(23)
					専	講師	井上 靖道 ()	平成23年2月	医薬品代謝解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成23年2月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(23)
					専	助教	岩尾 岳洋 ()	平成22年4月	臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(22)
					専	助教	伊藤 友香 ()	平成22年4月	医薬品代謝解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(22)
					専	助教	菊尾 孝太郎 ()	平成23年2月	薬品合成化学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	平成23年2月から 教育体制の充実を図るため採用。科目の一部を担当(23)

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、学部 学科 の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「**届出時の計画**」には**開設時現在の満年齢（科目就任時の満年齢ではありません）**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
18	14	9	12	53	0	20	15	11	13	59	0	
(18)	(14)	(9)	(12)	(53)	(0)	[2]	[1]	[2]	[1]	[6]	[-]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合： 1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	小田嶋 和徳	
2	准教授	田邊 光男	
3	講師	宮田 勇	
4	准教授	水島 恒裕	

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

講義・演習については、新規採用した教員および既存の専任教員により対応が可能であり、特段の問題は生じない。

冊子「履修の手引きと授業計画」で授業計画を明示するとともに、ガイダンスを開催して学生に周知した。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (23年1月)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
修了要件単位数 30単位 必修科目18単位，選択科目12単位	30単位 必修科目19単位，選択科目11単位 学生のより広汎な分野からの知識修得のため、大学間連携による特別講義科目（必修）を1単位増加させ、選択科目の単位数を1単位減少させた。また分野（研究室）増による特論科目（必修または選択）の開講科目数を増加させた。

(注)・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

実施体制

a 委員会の設置状況

全学のFD委員会が設置されているため、学部だけのFD委員会はない。なお、全学FD委員会は平成23年度からは「教育支援センター」に名称変更され、内容は一層充実する予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全学FD委員会は、年間5回程度開催されている。薬学部からは委員1名が出席する。

c 委員会の審議事項等

授業評価や大学満足度調査の結果分析や、それに基づく改善方法など。

実施状況

a 実施内容

1. 授業方法について研究会：

- ・ FD講演会「学生の質問力・主張力を伸ばすために」講師：橋本 勝（岡山大学 教育開発センター 教授）
- ・ FD講習会「研究を教育に活かすための方法」講師：近田政博（名古屋大学 高等教育研究センター 准教授）
- ・ FDワークショップ「Excelによる多様なデータの表現方法とプレゼンテーション資料作成スキルを身に付ける」

2. 新任教員のための研修会：

平成23年度4月1日付で着任した教員および平成22年度中に着任した教員対象の研修会

3. 教員評価のための研究会：

講演会「日本の大学における「教員評価」の現状と課題」講師：鳶田 敏行（茨城大学評価室 助教）

b 実施方法

1. 授業方法について研究会

- ・ FD講演会「学生の質問力・主張力を伸ばすために」
講演会形式に、途中小グループディスカッションを加えた形で、希望者対象に実施。
- ・ FD講習会「研究を教育に活かすための方法」
講演会形式に、途中小グループディスカッションを加えた形で、過去に未参加の教員を中心に参加。
- ・ FDワークショップ「Excelによる多様なデータの表現方法とプレゼンテーション資料作成スキルを身に付ける」
各人ノートパソコンを使っての、専任の外来講師による1日の実習形式の研修。希望者対象に実施。

2. 新任教員のための研修会

例年に1回（4月）、前年度以降に新任の教員に対して、講義法、学生評価法、学務関連規則などの研修会を行っている。

3. 教員評価のための研究会

実際に教員評価に関わっている講師による講演形式。教員の授業や研究等に対する評価およびフィードバックを如何に行うかについて、全国の大学の状況を把握するとともに、本学の教員評価制度についての議論。希望者対象に実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 授業方法について研究会：

- ・FD講演会(平成22年10月23日(土)午後1時-2時30分)には、薬学研究科の教員11名が参加、質疑応答も活発になされた。
- ・FD講習会(平成23年2月10日(木)午後5時-7時)には、薬学研究科の教員5名が参加。
- ・FDワークショップ(平成23年1月29日(土)午前10時-午後5時30分)には、薬学研究科の教員12名、事務職員2名が参加。各人1台パソコン使って実習形式で、主にエクセルとパワーポイントによる効果的な授業のプレゼンテーションスキルを学び、昼食、休憩時には授業方法に関する教員間の意見交換も活発になされた。

2. 新任教員のための研修会

新任教員のための研修会(平成23年4月19日(火)午前10時-11時15分)には、薬学研究科新任の全教員7名(教授1、准教授2、講師2、助教2)が参加した(昨年度も全新任教員6名が参加)。

3. 教員評価のための研究会

教員評価に関する講演会(平成22年11月28(日)13時15分-14時15分)には、薬学研究科の教員約15名が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

大学院講義のカリキュラムの見直し(必修選択の科目数変更)と薬学研究科の自己評価の評価項目の見直しを行った。

- (注)・「 a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・設置の趣旨と人材養成の目標に基づいて、順調に教育課程が進行している。収容定員の充足率もほぼ100%であり、来年度に向けての博士後期課程の開設についても準備中である。設置は、計画通り進行しているものと評価している。

自己点検・評価報告書

平成21年度の教育研究活動に関する自己評価報告書を取りまとめ、平成22年9月に研究科ホームページに掲載することによって公表した。平成22年度については現在取りまとめ中であり、本年秋には同様な方法で公表する予定である。

a 公表（予定）時期

- ・平成22年9月1日 公表（平成21年度分）
- ・平成23年9月～11月 公表予定（平成22年度分）

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

認証評価を受ける計画

- ・平成22年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けた。

(注) ・ 届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有) ・ 無)
- b 公表予定時期 (平成23年7月1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する) ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://http://www.nagoya-cu.ac.jp/dd.aspx?menuid=1468/>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(大学)」としてください。